

## 作業療法科

科長 仲川 健

---

### はじめに

2023年は、8名体制で運用を開始。今年は、グループ内の施設間異動を1名実施、育児休業復帰者1名、退職者2名と12月末の最終人員は7名体制となった。

作業療法科ではスタッフ1人1日あたりの実施単位数を18単位以上と目標を設定し取り組み実施した。また、外来リハビリの需要が多く、それに伴い限られた人員の中で体制を見直し受け入れ態勢を整えた。

### 実績

2023年1月～12月の年間総単位数は、25,303単位。月別平均単位数は、2,108単位であった。(図1)入院におけるOT処方延べ件数は、130件。前年と比べ27件増加となり、月平均としては10.8件の処方数であった。外来リハビリ実施者延べ件数は、2,675件5,474単位。月別平均単位数は、456単位。前年と比べ件数は249件、単位数は420単位の増加。(図2)前年同様に新型コロナウイルスの影響により入院期間の短縮、外来への早期移行傾向がみられた。年代別内訳では、80代が39例。90代、70代が各30例。75歳以上の後期高齢者が82名。(85歳以上の超高齢者が52名)と75歳以上は、処方延べ件数の約2/3以上を占めていた。(図3)

病棟別の一般・回復期病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ5,303名。単位数は、12,899単位。(図4)地域包括ケア病棟におけるリハビリ実施者数は、延べ2,780名。単位数は、6,930単位。(図5)患者一人あたりの月平均単位数(作業療法のみ)では、一般・回復期病棟は2.5単位。地域包括ケア病棟では2.4単位であった。

疾患別リハビリでは、運動器リハビリが95%。(図6)処方内訳は、上腕骨近位端骨折、腓骨板損傷、橈骨遠位端骨折等の上肢疾患が73例の54%。次に大腿骨頸部骨折・転子部骨折等の下肢疾患が31例の25%。腰椎圧迫骨折や脊椎・骨盤骨折等が17例の14%であった。(図7)

### 2024年方針

診療報酬改定に伴う病床種別・入院料の変更に対して整形分野のリハビリだけでなく様々な疾患に対応できるよう質の向上、患者サービスの向上を目指しスタッフの育成を実施していく。また、地域包括ケア病棟の役割である在宅・生活復帰支援を丁寧に行い、急性期からの受け入れも円滑に行えるよう取り組んでいく。

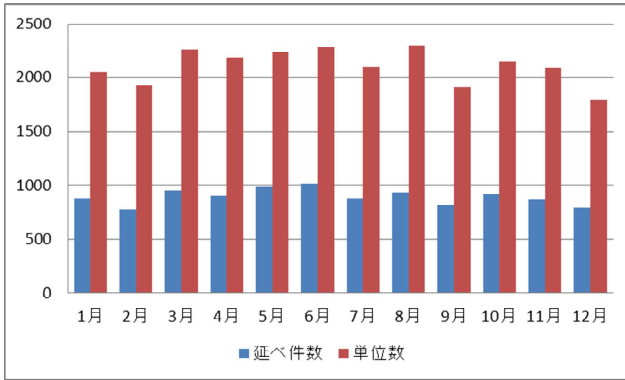


図1 月別実施単位数

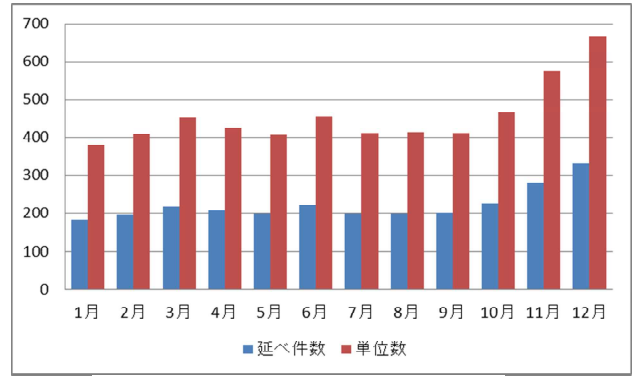


図2 外来実施者数と単位数

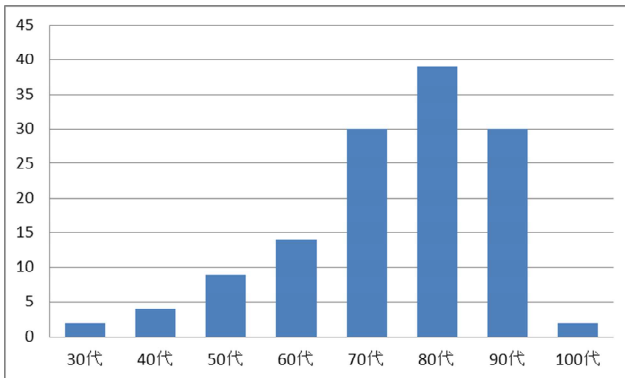


図3 年代別

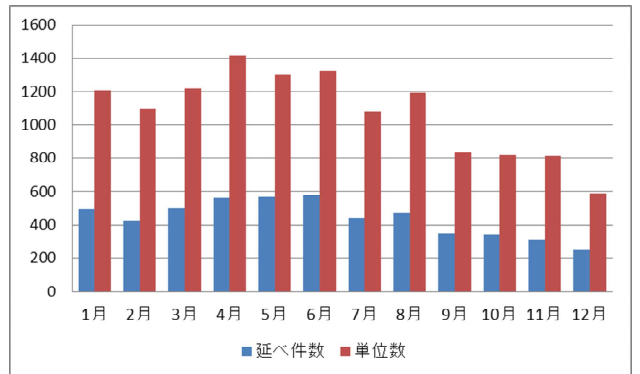


図4 一般・回復期病棟実施者数と単位数

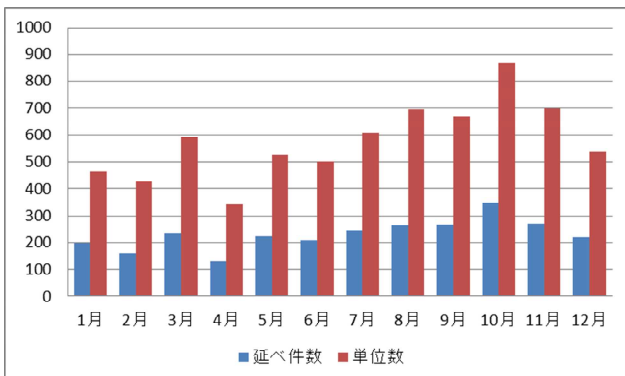


図5 地域包括ケア病棟実施者数と単位数

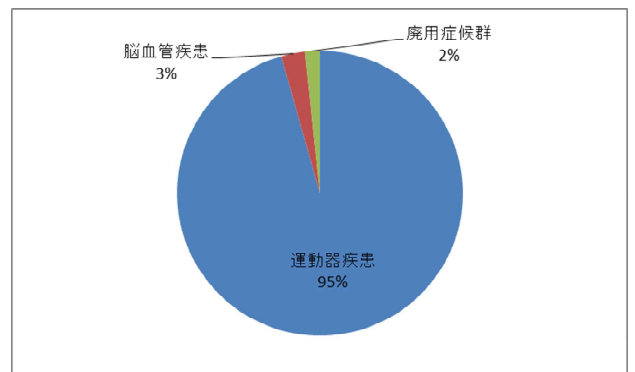


図6 疾患別リハビリ

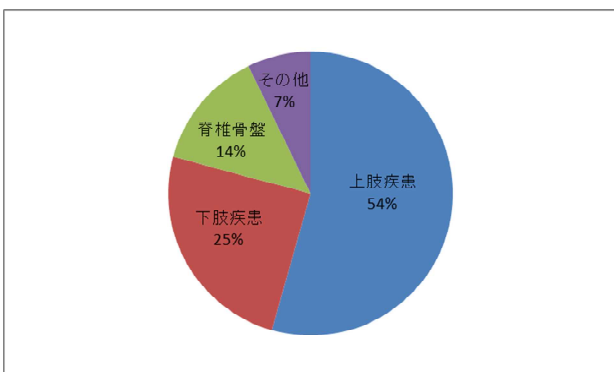


図7 処方内訳